

参 考 資 料

地区研究会の活動紹介

Introduction to the activities of the Regional Associations for Laboratory Animal Science

わが国には現在 11 の地区研究会があり、独自の活動が展開されています。本報では、各地区研究会の間での情報交換、交流などを意図して、平成 28 年度の活動について北から順に紹介します。なお、会長、事務局担当者及び講演者、話題提供者の方々のお名前は敬称を省略させていただきました。詳細な内容をご希望の方は各地区研究会の事務局にお問い合わせ下さい。

Summary

There are eleven Regional Associations for Laboratory Animal Science in Japan, and each of them conducts independent activities. The present paper introduces the activities of the Regional Associations in 2016 to promote information exchange and interaction among them, starting from those of the northernmost association. In the paper, honorifics for the staff of the office, lecturers, and people who provided us with information on topics have been omitted. For the details, please contact the office of each Regional Association.

北海道実験動物研究会

Hokkaido Association for Laboratory Animal Sciences (HALAS)

会長:有川二郎(北海道大学大学院医学研究科)

ホームページ:ただいま準備中です。

事務局:〒060-0818 札幌市北 18 条西 9 丁目

北海道大学大学院獣医学研究科

実験動物学教室内 安居院高志

E-mail:agui@vetmed.hokudai.ac.jp

TEL/FAX:011-706-5106

第 13 回研究会総会・学術集会 2016

平成 28 年 7 月 9 日(土)、樹化合物安全性研究所

<一般講演>若手奨励賞対象演題

①マウスマラリアモデルにおけるプロブコールとジヒドロアルテミシニンの併用効果

○久米愛子ら(帯広畜大・原虫病研究センター、産業技術総合研究所・バイオメディカル)

②マウスマラリア原虫感染母体から得た産仔の正常性 ○古屋 花ら(帯広畜大・原虫病研究センター、帯広畜大院畜産学研究所、岐阜大院連合獣医学研究科)

③プロポリスによる脂肪細胞からのレプチンを介した抗肥満症効果—食餌性肥満マウスを用いた検討— ○鷺尾浩平ら(北大院医学研究科附属実験動物施設、酪農学園大獣医保健看護学類動物疾病治療、酪農学園大獣医学類獣医生理学)

④Analysis of the relationship between enzymatic and antiviral activities of

the chicken oligoadenylate synthetase L (ChOAS-L) ○Hassan .Tag-El-Din-Hassen, *et al.* (Laboratory of Laboratory Animal Science and Medicine, Department of Disease control, Graduate School of Veterinary Medicine, Hokkaido University, Laboratory of Laboratory Animal Science and Medicine, Faculty of Veterinary Medicine, Kitasato University, Division of Microbiology and Genetics, Institute of Resource Development and Analysis, Kumamoto University)

⑤*Ccdc175* 遺伝子ノックアウトマウスにおける老齢雌個体の表現型解析 ○三國海音ら(北大・生命科学学院、北大・遺伝子病制御研究所、北大・獣医学研究科)

⑥配偶子形成時期に発現する新規哺乳動物特異的な *1700034J05Rik* 遺伝子ノックアウトマウスの表現型解析 ○西片真菜ら(北大・生命科学学院)

[平成 28 年度若手奨励賞]

受賞者 西片真菜 受賞演題 (上記)

<教育講演>

Urine peptidomic Analysis for Prostate Cancer Detection and Biomarker Discovery ○Kenji Nakayama *et al.* (Department of Urology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Shimidzu Techno-Research, Inc. and Shimidzu Corporation, Kyoto, JAPAN) 中山憲司(京大病院・島津テックノリサーチ共同研究開発プロジェクト)

<特別講演>

長寿・がん化耐性動物ハダカデバネズミ由来 iPS 細胞の腫瘍化耐性機構 講師 三浦恭子 (北大・遺伝子病制御研究所動物機能医科学研究室)

<一般講演>

⑦新規ゲノム編集マウスの作製法「GONAD」のラットへの応用 ○高橋 剛ら(東海大医学部基礎医学系分子生命科学、東京農大院生物産業学研究科、ネブラスカ大医療センター、鹿児島大・医用ミニブタ・先端医療開発研究センター 遺伝子発現制御)

⑧*Foxe3^{ret}* の白内障発症を加速させる *Pde6b^{rd1}* の同定と、新たな修飾遺伝子の存在 ○古郡真宗ら(東京農大院生物産業学研究科、東京都医学総合研究所)

⑨NGS 解析に基づく NAK/Nokh ラットの小眼球症関連遺伝子のスクリーニング ○和田健太ら(東京農大生物生産産業学部、東京農大院生物産業学研究科、東京農大生物資源ゲノムセンター、東京都医学総合研究所・哺乳類遺伝プロジェクト)

<賛助会員アワー>

LC-MS/MS を用いたステロイドホルモン分析について ○前田尚之(株)化合物安全性研究所 安全性研究部臨床検査・化学分析室)

東北動物実験研究会

Tohoku Research Association for Animal Experiments

会長：三好一郎(東北大学大学院医学研究科)

ホームページ：

[http://www.med.akita-u.ac.jp/~](http://www.med.akita-u.ac.jp/~doubutu/tohoku/tohoku.html)

[doubutu/tohoku/tohoku.html](http://www.med.akita-u.ac.jp/~doubutu/tohoku/tohoku.html)

事務局：〒980-8575 仙台市青葉区星稜町 2-1

東北大学大学院医学系研究科附属

動物実験施設内 小関陽子

E-mail:voko-k@med.tohoku.ac.jp

TEL:022-717-8175、FAX:022-717-8180

第 27 回研究会

平成 28 年 12 月 9 日(金)、秋田温泉プラザ
主催：東北動物実験研究会、共催：日本実験動物技術者協会(奥羽・東北支部)、主管：国立大学法人 秋田大学バイオサイエンス教育・研究サポートセンター動物資源部門

<講演 I> 遺伝子改変マウスを用いて骨格形成メカニズムに迫る 古市達哉(岩手大農学部実験動物学研究室)

<講演 II> ステロイドホルモン測定による実験動物のストレス定量の試み 川辺敏晃(アーク・リソース(株) 事業推進室)

<講演 III> 心筋興奮のシミュレーションと応用～コンピュータシミュレーションによる動物実習の代替～ 尾野恭一(秋田大医学系研究科 細胞生理学講座)

筑波実験動物研究会

Tsukuba Association for Laboratory Animal Science

会長：山海 直(医薬基盤・健康・栄養研究所)

ホームページ：<http://www.talas.jp/>

事務局：〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜 3-17-6 11F

日本チャールス・リバー(株)内 上田 尚

E-mail:office@talas.jp

TEL:045-474-9340、FAX:045-474-9341

第 24 回研究会総会および第 51 回講演会

平成 28 年 6 月 3 日(金)、文部科学省 研究交流センター 2 階 国際会議場

<シンポジウム> 実験動物施設の環境を考えるー実験動物施設の考え方と実際ー

「日本チャールス・リバーにおける生産動物の品質管理ーマウス・ラットー」 丸山 滋(日本チャールス・リバー(株))

「SPF ウサギ生産施設の飼育管理」 原田 顕範(北山ラベス(株))

「実験目的と供試動物に合わせた環境管理について」 小山公成(アステラスリサーチテクノロジー(株))

<法人会員展示>

<教育講演 I 遺伝子改変シリーズ(第 5 弾)> 遺伝子改変動物の命名法 目加田和之(岡山理科大)

<教育講演 II 動物倫理・福祉シリーズ(受講証発行対象講演)> 動物実験の倫理学 伊勢田 哲治(京都大)

第 28 回筑波実験動物研究会技術講習会

平成 28 年 10 月 14 日(金)10:00~18:00

筑波大学生命科学動物資源センター

受講料:10,000 円(昼食代含む)、非会員は当日 1,000 円の入会費支払い

講師:辻井 弘・水野正仁(アステラスリサーチテクノロジー(株))

講義内容:講習会オリエンテーション、実技:飼育管理(個体識別、性判定、症状観察動物の取扱い(処置馴化、保定)、実験手技(投与、採血、麻酔、麻酔深度確認、解剖等)、自由討論、修了証授与など

第 52 回講演会

平成 28 年 12 月 2 日(金)、文部科学省 研究交流センター 2 階 国際会議場

<シンポジウム> 実験動物の腸内細菌叢とス

トレス

「社会的敗北ストレスとマウス腸内細菌叢」
高山善晴(農業・食品産業技術総合研究機構)
「腸炎・肝炎モデルにおける、大腸発酵促進時の腸内細菌叢構成変化」 塚原隆充(㈱栄養・病理学研究所)

「腸内環境評価のための細菌叢および代謝物分析受託サービス」 久田貴義(㈱テクノスルガ・ラボ)

「脳発達と腸内細菌叢-母子相関の観点から-」 枋谷史郎(福井大)

<展示・ポスター発表等>

<特別講演>60年間の研究から得た教訓～すべき事、してはいけない事～ 西村 暹(筑波大)

<教育講演> 動物倫理・福祉シリーズ(受講証発行対象講演)

ARRIVEのガイドライン 動物実験の再現性と動物福祉の向上 久和 茂(東京大)

北陸実験動物研究会

Hokuriku Laboratory Animal Research Association

会長：山本 博(富山大学生命科学先端研究センター動物実験施設)

ホームページ：

<http://kiea.w3.kanazawa-u.ac.jp/lara>

事務局：〒920-8640 金沢市宝町13-1
金沢大学学際科学実験センター
実験動物研究施設内

E-mail:lara-info@kiea.m.kanazawa-u.ac.jp

TEL:076-265-2461、FAX:076-234-4240

第52回研究会(金沢医大)

平成28年2月27日(土)、金沢医科大学病院新館12階 大会議室

<維持会員ニュース>(三協ラボサービス(㈱)「無菌マウスの維持・繁殖業務について」)

三協ラボサービス(㈱) つくばラボ 小林裕文
<特別講演1>「安全性評価における遺伝子発現量解析の応用」 一般財団法人化学物質評価研究機構 齋藤文代

<特別講演2>「時計タンパク質と時計遺伝子による24時間リズムの形成機構」 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻 深田吉孝

第20回総会・第53回研究会(金沢大)

平成28年6月4日(土)、金沢大学医学類G棟 第4講義室(宝町キャンパス)

<維持会員ニュース>(テクノプラスト・ジャパン(㈱)「基礎医学研究施設に於ける器材メーカーの役割～飼育従事者と動物に配慮し

た製品のご紹介及び会社説明～」テクノプラスト・ジャパン(㈱) 山下真由

<特別講演1>「Sox17ヘテロ変異の疾患モデルへの応用」 東京医科歯科大 実験動物センター 金井正美

<特別講演2>「マウスミュータント系を用いた生殖器形成の解明の最前線:性差は如何に制御されるか」 和歌山県立大 先端医学研究遺伝子制御学研究所 山田 源

第54回研究会(金沢医大)

平成28年10月8日(土)、金沢医科大学病院新館12階 大会議室

<特別講演1>「129系統由来ES細胞における血清条件での安定的な自己複製の遺伝的要因」 金沢医科大 総合医学研究所 大塚 哲

<特別講演2>「細胞ストレスおよび炎症可視化モデルマウスの開発とその性能」 金沢医科大 総合医学研究所 岩脇隆夫

<特別講演3>「セリンプロテアーゼインヒビターによるアレルギー反応の制御機構」 東北医科薬科大免疫学教室 中村 晃

信州実験動物研究会

Shinshu Experimental Animal Research Association

会長：松本清司(信州大学基盤研究支援センター動物実験支援部門)

ホームページ：

<http://shinshuanimal.umin.ne.jp/>

事務局：〒396-0025 長野県伊那市荒井3052-1
北山ラベス(㈱) 事業部 北條佳昭
E-mail:hojo.yoshiaki@nisshin.com

TEL:0265-78-8115、FAX:0265-78-8885

第36回研究会総会・勉強会・研究発表会

2016年3月4日(金)、信州大学農学部11番講義室

第84回勉強会

「実験動物としてのマーモセット」 富岡郁夫(信州大 バイオメディカル研究所、国立精神・神経医療研究センター)

第34回研究発表会

1. 新型エーラスダンロス症候群の疾患モデル動物の開発 ○吉沢隆浩ら(信州大ヒト環境科学研究支援センター、信州大医学部遺伝医学予防医学教室)

2. マーモセットの血液学的検査における多項目自動血球分析装置の適用 ○平澤由貴ら(㈱イナリサーチ、公益財団法人実験動物中央研究所、シスメックス(㈱))

3. 遺伝子改変ウサギ作製に伴う過剰排卵誘起法の検討 ○高井直史ら(北山ラベス(㈱))

伊那バイオセンター)

4. 農薬の毒性評価にイヌ慢性(1年)試験は必要か? ○松本清司(信州大ヒト環境科学研究支援センター)

35周年記念集会・勉強会

平成28年10月21日(金)、信州大学松本旭キャンパス 旭総合研究棟9階 講義室C

- <記念講演> ①「実験動物技術者への提言」中川博司(株イナリサーチ 代表取締役会長)
②「自然と無実験動物と研究者たち」辻 紘一郎(株ツーセル 代表取締役社長)

第5回実験動物科学シンポジウム

テーマ:医学研究を支える実験動物科学
—サル類—

主催:(公社)実験動物学会・信州実験動物研究会

平成28年10月21日(金)、信州大松本キャンパス 旭総合研究棟9階 講義室AB

- <セッション1> 移植免疫寛容カニクイザル「MHC型特定カニクイザルの紹介(ヒトやマウスを含めた遺伝子解析を中心に)」椎名 隆(東海大医学部基礎医学系分子生命科学)

「MHC型特定カニクイザルの医学研究への応用」小笠原一誠(滋賀医科大病理学講座)

「iPS細胞由来心筋細胞を用いた心筋再生治療:霊長類同種移植モデルを用いた検討」

柴 祐司(信州大バイオメディカル研究所/医学部附属病院循環器内科)

- <セッション2> 実験用小型霊長類マーモセット

「実験動物としてのマーモセットの特性と疾患モデルへの応用」井上貴史(公益財団法人実験動物中央研究所)

「GLP試験におけるマーモセットの有用性」本坊敏保(株イナリサーチ)

「遺伝子改変マーモセットを用いた脳科学」岡野栄之(慶応義塾大医学部)

「実験動物のエンリッチメントの実例」武藤 信一(キッセイ薬品工業(株) 安全性研究所 安全性薬理研究室)

- 信州実験動物研究会報 No. 63 2016年3月発行

静岡実験動物研究会

Shizuoka Experimental Animal Research Association

会長:石川智久(静岡県立大学薬学部)

ホームページ: <http://www1a.biglobe.ne.jp/shizudou/>

事務局:〒437-1213 静岡県磐田市塩新田582-2 (公財)食品農薬品安全性評価センター

竹原 広

E-mail:hiroshi@anpyo.or.jp

TEL:0538-58-3572、FAX:0538-58-3586

- 平成28年度技術シンポジウム「環境エンリッチメントとその評価」平成28年8月26日(金)、東レ総合研究センター(三島市)
講演1「日本クレア(株)富士宮技術サービスセンターにおける環境エンリッチメントの取り組みとその評価」高橋有希(日本クレア(株)富士宮技術サービスセンターBS管理課)
講演2「ボゾリサーチセンターにおける環境エンリッチメントの取り組みと課題」阪川隆司(ボゾリサーチセンター(株) 函南・御殿場研究所 選任獣医)
講演3「中外製薬の動物施設における環境エンリッチメントの取り組みと課題」渡邊利彦(中外製薬(株) 管理獣医師)
講演4「アステラスにおける環境エンリッチメントの取り組みと課題」小山公成(アステラスリサーチテクノロジー(株) 動物管理部)
器材展示:アニメック、EPS 益新、日本クレア、マーシャルバイオリソーシス・ジャパン)

第46回総会・第44回研究発表会

平成28年10月7日(金)、静岡市産学交流センター B・nest (ビネスト))

大会担当幹事:静岡大学理学部

第46回総会

<特別講演>

マウスの発生工学とテラトーマ研究40年
野口基子(元静岡大理学部教授)

第44回研究発表会

<研究発表>

1. マウス精巢性テラトーマ形成の新規原因遺伝子の探索 宮崎岳大(静岡大創造科学技術大学院バイオサイエンス専攻)
2. 薬剤誘発性大腸炎モデルを用いた tranilast の大腸炎症抑制作用および体内動態評価 世戸孝樹(静岡県立大薬学部薬物動態学分野)
3. 神経障害性疼痛時に発生する皮膚血流障害のメカニズムの解明 石田裕丈(静岡県立大院薬食生命科学総合学府薬理学教室)
4. 自転/公転ミキサーを用いた投与液調製法—低回転条件— 倉谷沙綾(興和(株) 富士研究所)
5. 協和発酵キリン株式会社 東京リサーチパーク動物実験施設における省エネルギー活動 安藤博司(協和発酵キリン(株) 東京リサーチパーク)
6. マーシャルビーグルのソシアライゼーションプログラム 安倍宏明(マーシャル・バイ

オリソース・ジャパン(株)
 <企業展示> 器材企業展示 5社
 ○ニューズレター No.15 2016年6月30日
 発行

東海実験動物研究会

Tokai Association for Laboratory Animal
 Science
 会長:三好一郎(名古屋市立大院医・実験動物
 研究教育センター)
 ホームページ:[http://www.med.nagoya-cu.jp/
 animal.dir/animalweb/tokai/tokai_index
 .html](http://www.med.nagoya-cu.jp/animal.dir/animalweb/tokai/tokai_index.html)
 事務局:〒501-1194 岐阜市柳戸 1-1
 岐阜大学生命科学総合研究支援セン
 ター動物実験分野 二上英樹
 E-mail:nikami@gifu-u.ac.jp
 TEL:058-230-6609、FAX:058-230-6044

第 88 回研究会

平成 28 年 3 月 19 日(土)、中部大学 名古屋
 キャンパス(三浦記念会館)
 <講演会>
 1. 特別講演 「実験動物を用いた基礎老化研究
 への取り組み」丸山光生(国立長寿医療研究
 センター)
 2. 企業・技術紹介講演 ①「CRISPR/Cas9
 system を用いた遺伝子改変動物の作製〜ラ
 ットを中心とした事例紹介〜 田中貴雄
 (株)ケー・エー・シー) ②「世界発『ナチ
 ュラルクラスター技術』 搭載 ナノフィー
 ルが生活を変える」 外山研介(株)コロナ)
 3. 教育講演「世界の動物権利団体の動き、考
 え方、そして心構えとしての Public
 engagement」 安倍宏明(マーシャル・バイオ
 リソース・ジャパン(株))

関西実験動物研究会

Hansai Laboratory Animal Research
 Association
 会長:近藤 玄(京都大学ウイルス・再生医科
 学研究所統合生体プロセス分
 野内)
 ホームページ:
<http://www.klara.umin.ne.jp/index.html>
 事務局:〒606-8507 京都市左京区聖護院川原
 町 53
 京都大学ウイルス・再生医科学研究
 所統合生体プロセス分野内
 山本恵津子
 E-mail:kansaijm@infront.kyoto-u.ac.jp
 TEL:075-751-4860, FAX:075-751-4862

(平成 29 年 4 月 1 日から事務局移転)

第 129 回研究会

平成 28 年 3 月 4 日(金)、京都大学楽友会館
 2 階 会議・講演室
 テーマ:マウスとサルを用いて脳の高次機能
 を探る

<講演>

1. マウスを用いた情動性行動の解析 小出
 剛(国立遺伝学研究所 マウス開発研究室)
2. 霊長類の脳科学—特に脊髄損傷からの機能
 回復機構に関して 伊佐 正(京都大院医学
 研究科 神経生物学)

<維持会員ニュース>

「スーパー次亜水脱臭効果の提案」 清水実
 験材料(株)(吉田裕介) / (株)エイチ・エス・ピ
 ー (小野朋子)

第 130 回研究会

平成 28 年 6 月 17 日(金)、神戸大学医学部会
 館シスメックスホール
 テーマ:神経科学の新たな展開

<講演>

1. 細胞骨格の調整による神経細胞の形態制
 御機構 八木秀司(兵庫医科大解剖学細胞
 生物部門)
2. 大脳新皮質の形成とリーラーマウス
 寺島俊雄(元神戸大院医学研究科 神経発
 生学分野)

<トピックス>

「ARRIVE guidelines」 塩見雅志(神戸大院
 医学研究科附属動物実験施設)

<維持会員ニュース>

「QR コードを用いた個体認証システムの紹
 介」(株)エーテック(福田寛之)

第 131 回研究会・日本実験動物技術者協会関西 支部合同大会

平成 28 年 9 月 10 日(土)、大阪大学医学部講
 義棟 1 階 A 講堂

第 131 回研究会

<維持会員ニュース>

「PRIA-PCR によるマウス・ラットの微生物
 モニタリングサービス」日本チャールス・
 リバー(株)(丸山 滋)

テーマ:神経回路ダイナミクスへの挑戦

<講演会>

1. 実験動物としてマウスを用いた記憶学習
 の仕組みの研究 松尾直毅(大阪大院医
 系研究科 分子行動神経科学)
2. 実験動物が支える中枢神経再生治療法の
 開発研究 山下俊英(大阪大院医学系研究
 科/生命機能研究科 分子神経科学)

日本実験動物技術者協会関西支部

テーマ:動物実験に関する効果的な教育訓練について考える

<講演会>

1. 岡山大学における教育訓練に関する取り組み 樫木勝巳(岡山大自然科学生命科学研究支援センター 動物資源部門)
2. 動物実験に対する効率的かつ効果的な社内教育について考える 黒木宏二(大日本住友製薬(株) 研究管理部)

第 132 回研究会

平成 28 年 12 月 9 日(金)、京都府立医科大学 図書館ホール

<会員の研究発表>

「ラット」

1. *Ginip* 遺伝子および転写産物のラット脳における発現解析 ○沼倉佑樹ら(大阪府大、京都大、大阪大、広島大、大阪薬科大、京都疾患モデル研)
2. *Ginip-KO* ラットの情動行動および記憶学習行動試験 ○芹川忠夫ら(京都疾患モデル研、大阪薬科大、(株)ケー・エー・シー、大阪大、京都大、広島大、渚クリニック)
3. 肥満・糖尿病モデル ZFDM ラットにおけるインクレチン応答性インスリン分泌障害機構の解明 ○横井伯英ら(神戸大院・医・分子代謝医学、星野試験動物飼育所)
4. 神経軸索ジストロフィーモデルラットの病理組織学的検討 ○田中美有ら(京大・医・動物実験施設、大阪府大・獣医病理)
5. エレクトロポレーションによる免疫不全ラットの効率的作製 ○宮坂桂樹ら(大阪大院・医・附属動物実験施設、共同研・ゲノム編集センター)
6. *Pneumocystis carinii* の微生物検査に用いる PCR 用検査材料の検討 ○水野洋子ら(大阪大・医・附属動物実験施設)

「マウス」

7. 胎児発育不全モデルマウスを用いた低出生体重児への有用な栄養管理法の検討 ○吉留翔哉ら(大阪府大・実験動物学)
 8. 糖尿病マウスの創傷遅延に対するシンバイオティクスの改善効果 ○久保 薫ら(奈良医大・動物実験施設、第二内科、森永乳業(株))
 9. 癌型 K-Ras 依存的な肺発癌感受性遺伝子座の探索 ○齋藤浩充ら(三重大・先端科学研究支援センター動物機能ゲノミクス)
- 「ウサギ・サル」
10. 各種動脈における動脈硬化病変の好発部位、及び発生した病変の性状 動脈硬化のモデル動物である WHHLMI ウサギを用いた

検討 ○中川貴之ら(神戸大院・医・疾患モデル動物病態生理、附属動物実験施設)

11. カニクイザルの子宮内膜症における細胞障害ならびに免疫抑制作用について

○中村紳一郎ら(滋賀医大・動物生命科学研究センター、疾患制御病理、産婦人科、醍醐渡邊クリニック、生殖再生医学アカデミア)

<トピックス>

外部検証促進のための人材育成 喜多正和(京都府立医大院・医・実験動物センター)

<特別講演>

1. ダイレクト・コンヴァージョンによる組織細胞の創出とマウスモデルを用いた生体内機能解析 松田 修(京都府立大院・医・免疫学)
2. チンパンジーから探るヒトのこころの進化 友永雅己(京都大・霊長類研・思考言語分野)

○関西実験動物研究会報 38 号 平成 28 年 12 月発行

岡山実験動物研究会

Okayama Association for Laboratory Animal Science

会長：国枝哲夫(岡山大学大学院環境生命科学研究科)

ホームページ：<http://okayamexpanim.sharepoint.com/Pages/default.aspx>

事務局：〒700-8530 岡山市北区津島中 1-1-1

岡山大学大学院環境生命科学研究科
・農学部動物遺伝学教室気付

E-mail:tkunieda@cc.okayama-u.ac.jp

E-mail:ksato@cc.okayama-u.ac.jp

TEL:086-251-8314、FAX:086-251-8388

第 71 回研究会例会

平成 28 年 6 月 25 日(土)、就実大学図書館 5 階 AV ホール

世話役：工藤季之・古林呂之(就実大学薬学部)

<一般講演>

1. ラット脳下垂体隆起部の新規生理機能の探索 相澤清香ら(岡山大院自然科学研究科生物科学専攻、埼玉大院理工学研究科生命科学系専攻)
2. マウス子宮内膜における TGF- β 遺伝子の発現制御 吉田すみれら(岡山大院自然科学研究科)
3. カフェインによる鼻炎抑制作用について ○辻本まどから(ノートルダム清心女子

大・人間生活学部・食品栄養学科、岡山大院医歯薬学総合研究科(薬学系)

4. ウシ精巣からの精原幹細胞採取の試み
永原知樹ら(岡山大院環境生命科学研究科)
5. ブタ卵母細胞中のミトコンドリア細胞内分布の変化 葛原大貴ら(岡山大院環境生命科学研究科)

<特別講演>

1. ラットを用いた薬物の経鼻吸収実験と吸収動態解析 古林呂之(就実大薬学部・薬物動態学研究室)
2. ニワトリの食欲調節機構に関するこれまでの研究と今後の展望 本田和久(神戸大院農学研究科)

第72回研究会例会

平成28年12月9日(金)、加計学園50周年記念館ホール(岡山理科大学)

世話役：愛甲博美・目加田和之(岡山理科大学)

<特別講演1>

「腸内フローラ研究におけるノトバイオート技術の貢献と進展」 森田英利(岡山大院環境生命科学研究科・動物応用微生物学)

<特別講演2>「遺伝子改変マウスを利用した生体内間葉系幹細胞の階層性の理解」
宝田剛志(岡山大院医歯薬学総合研究科・組織機能修復学分野)

<記念講演>「ミュータント系実験動物育種と野生動物の実験動物化」 織田銑一(元岡山理科大学教授、元岡山実験動物研究会会長)

○岡山実験動物研究会報 第32号 2016年4月発行

九州実験動物研究会

Kyushu Experimental Animal Research Association

会長：大沢一貴(長崎大学先端生命科学研究支援センター)

ホームページ：

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/AnimalCenter/kyujitsuken/index.html>

事務局：〒849-0938 佐賀市鍋島5-1-1
佐賀大学総合分析実験センター
生物資源開発部門 北嶋修司
E-mail: kitajims@cc.saga-u.ac.jp
TEL: 0952-34-2430, FAX: 0952-34-2024

第36回日本実験動物技術者協会九州支部

研究発表会・第34回九州実験動物研究会
総会 合同開催(第385回本部共催)

平成28年10月29日(土)~30日(日) 産業医科大学 ラマツィーニ小ホール

10月29日

<特別講演I> (実技協九州支部、実動協九州支部)

動物園動物の福祉 岩野俊明(到津の森動物公園 園長)

<特別講演II> (九実研)

遺伝子組換え動物を用いた下垂体後葉ホルモンの研究 上田陽一(産業医科大 第一生理学 教授)

<ポスターセッション> (九実研)

1. APPxPS2 ダブルトランスジェニックマウスを用いたヘルペスウイルス潜伏感染下アルツハイマー病モデル 田中聖一ら(福岡大アニマルセンター、(株)アニマルケア)
 2. ストレッチハンドリングによるラットのストレス軽減効果について 中村綾花ら(岡山大院医歯薬学総合研究科、岡山大自然生命科学研究支援センター動物資源部門)
 3. ケナガネズミ精巣の組織学的評価 (1)
○加藤悟郎ら(宮崎大フロンティア科学実験総合センター)
 4. MRG15はスプライシング制御を介して精子形成に必須の役割を果たす 岩森巨樹ら(九州大院医学研究院、自治医科大医学部、九州大生体防御医学研究所、Baylor College of Medicine)
 5. ヒト由来抗体発現トランスジェニックマウスを利用した抗NPモノクローナル抗体におけるインフルエンザウイルス感染防御能の解析 ○藤本佳万ら(九州大 実験動物学、長崎大 熱帯医学研究所、京都産業大 鳥インフルエンザ研究センター、鳥取大 鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター、北海道大 実験動物学、ベトナム国立衛生疫学研究)
 6. 可溶性 glycoprotein D 受容体発現トランスジェニックマウスの HSV-2 感染抵抗性の比較 ○藤本佳万ら(九州大 実験動物学、鳥取大 獣医実験動物学、京都産業大 総合生命科学部、北海道大 実験動物学、北海道大 遺伝子病制御研究所)
 7. ヨーロッパモリネズミ (*Apodemus sylvaticus*) SPF 化にむけた里親哺育の有用性 ○七條宏樹ら(宮崎大フロンティア科学実験総合センター)
 8. 精巣特異的アクチン関連細胞間結合 Ectoplasmic specialization とアクロソームに局在する新規タンパク質の同定 ○岩森督子ら(九州大院・医、九州大・生医研、ベイラー医科大)
- <実技協九州支部> 一般演題

1. 福岡大学アニマルセンターで発生した蟻虫感染とその収束確立 ○清水直美ら(福岡大アニマルセンター、(株)アニマルケア)
 2. 二酸化塩素ガスによるラット用陰圧ビニールアイソータ除染の試み ○上杉幸紀ら(株)アニマルケア、産業医科大 教育研究支援施設 動物研究センター)
 3. ラットの摂餌量測定における飼料および給餌器について ○岡部百合ら(久留米大医学部動物実験センター、(株)バイオテック、(株)シンファクトリー)
 4. 動物実験施設で分離された *Bordetella bronchiseptica* の Hartley モルモットに対する病原性 ○亀山英子ら(九州大院医学研究院附属ヒト疾患モデル研究センター 動物実験施設、九州大院医学研究院実験動物学分野)
 5. カニクイザルの尾先端部壊死治療としての改良断尾術 ○本村優子ら(株)新日本科学安全性研究所)
 6. ラット肝臓への外科的投与法の検討 ○山本圭一ら(株)新日本科学安全性研究所)
- <第34回九実動研総会>
 <第39回実技協九州支部総会>
 <特別講演Ⅲ> (九実研)
 新規実験動物モデルツパイの開発
 小原恭子(鹿児島大共同獣医学部 教授)
 <特別講演Ⅳ> (第385回実技協本部共催実技協・九州支部)
 ゲノム編集の基本原則と限らない可能性
 山本 卓(広島大院理学研究科 数理分子生命理学専攻 教授)

第9回実験動物ジョイントセミナー・イン九州
 九実研、実動協九州支部、実技協九州支部共同企画

「動物愛護管理法改正審議を控えて 動物実験の機関管理を推進するために考えるべきこと」

※参加は会員及び招待者に限定。

10月30日

<第6回若手勉強会>

第7回実験動物管理者等研修会

主催：(公社)日本実験動物学会

後援：九州実験動物研究会ほか13の各種協議会、協会、学会など

2016年9月16日(金)～17日(土)、九州大学西新プラザ大会議室 AB 定員150名

○九州実験動物学雑誌 No. 32 2016年10月発行

琉球実験動物研究会

Ryukyu Association for Laboratory Animal Science

会長：小杉忠誠(琉球大学名誉教授)

事務局：〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町上原207

琉球大学医学部附属動物実験施設内
 上田智之

E-mail: Ueda@med. u-tyukyu. ac. jp

TEL: 090-895-1208, FAX: 098-895-1441

第24回研究会

平成28年2月6日(土)、琉球大学50周年記念会館

<第一部>

「動物実験の現状と将来」

1. 製薬企業における動物実験 アステラスリサーチテクノロジー 小山公成
2. 大学における動物実験 沖縄科学技術大学院大 鈴木真

<第二部>

「技術紹介」

1. 研究目標達成のリスク管理～非穿孔型耐震器具による飼育ラックの耐震固定～
 静岡県ふじのくに防災士 加藤恒雄(有)キョウエー
2. 実験動物用イメージングシステムの最新技術紹介 住商ファーマインターナショナル(株)・アプリケーションサイエンティスト 堀内真千子
3. 安楽死のガイドライン(米国獣医師会)
 沖縄科学技術大学院大 鈴木真

文責：岡山実験動物研究会事務局

岡山大学大学院環境生命科学研究科・農学部動物遺伝学教室気付

TEL: 086-251-8314

編集担当 佐藤勝紀

E-mail: ksato@cc. okayama-u. ac. jp